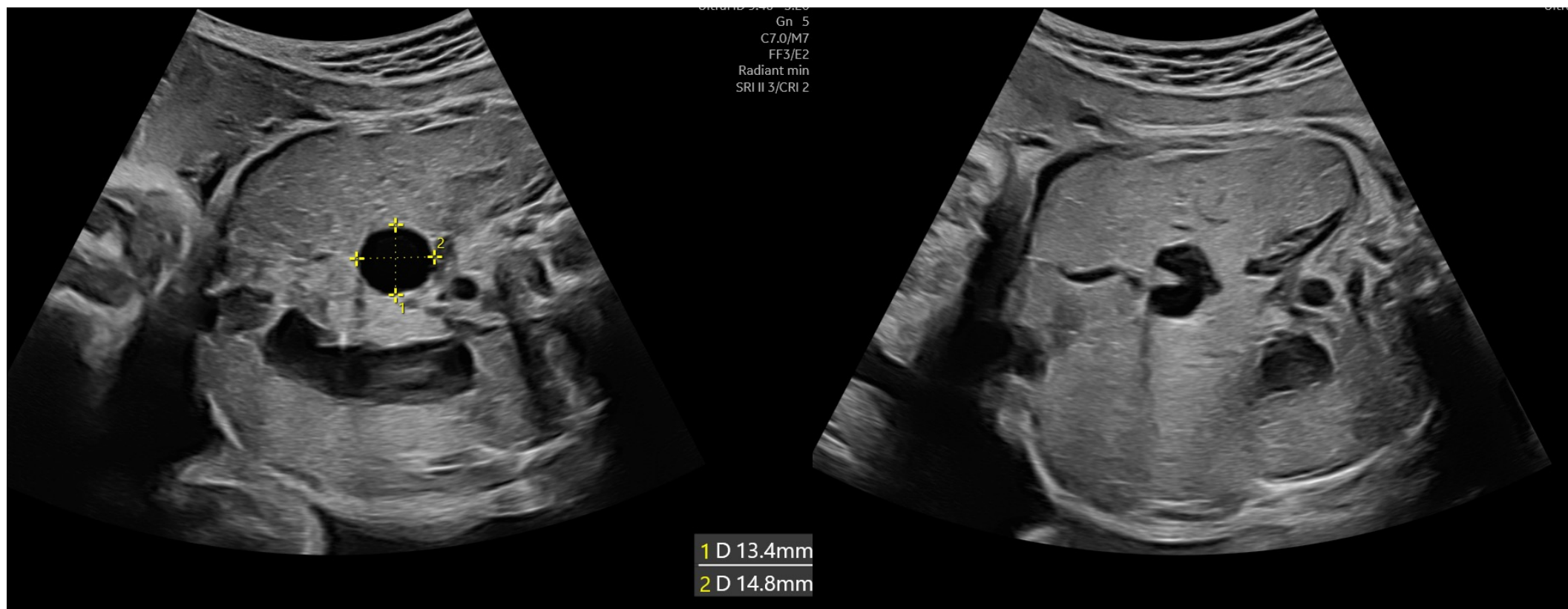


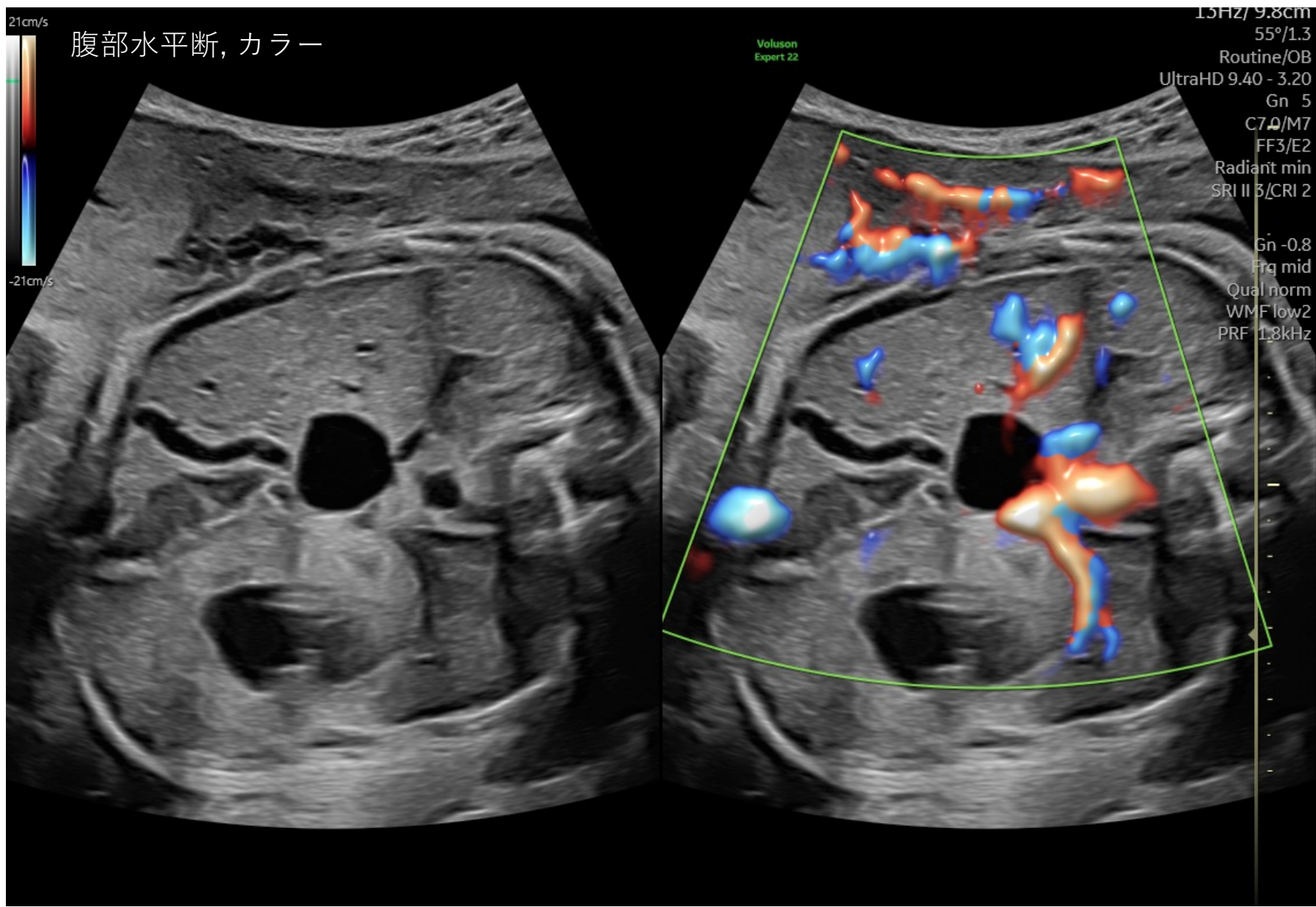
# 例題

37歳 2妊1産

妊娠31週に児の腹部の嚢胞にて紹介受診となった

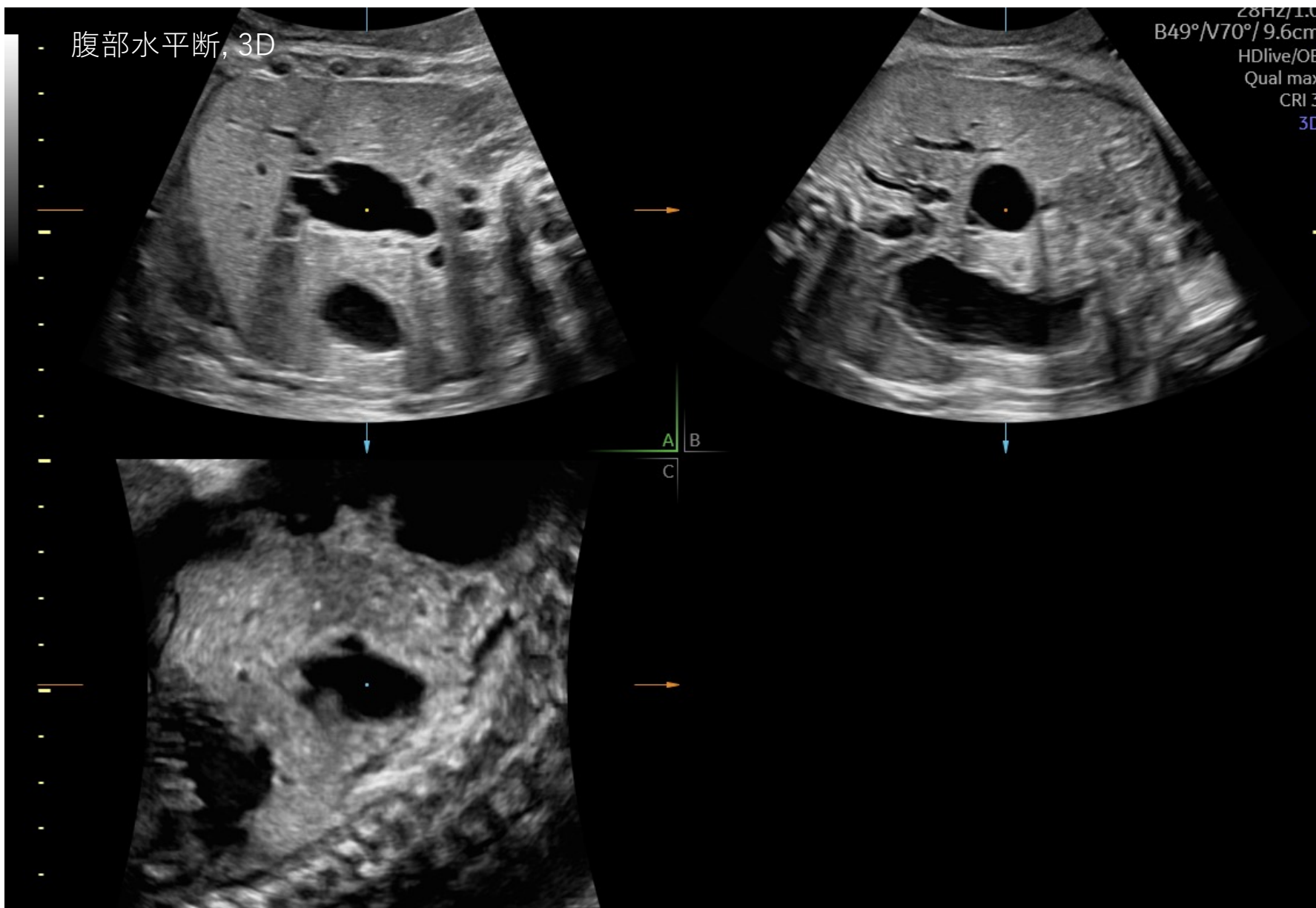
腹部水平断





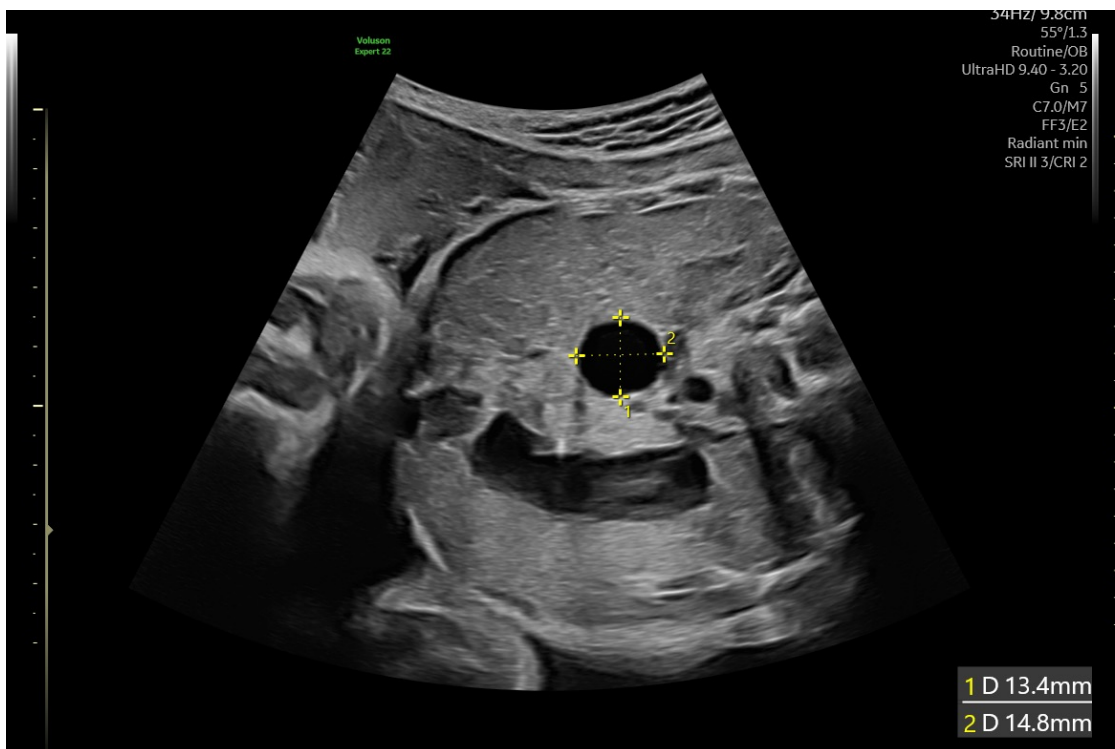
腹部水平断, 3D

28Hz/1.0  
B49°/V70°/9.6cm  
HDlive/OB  
Qual max  
CRI 3  
3D

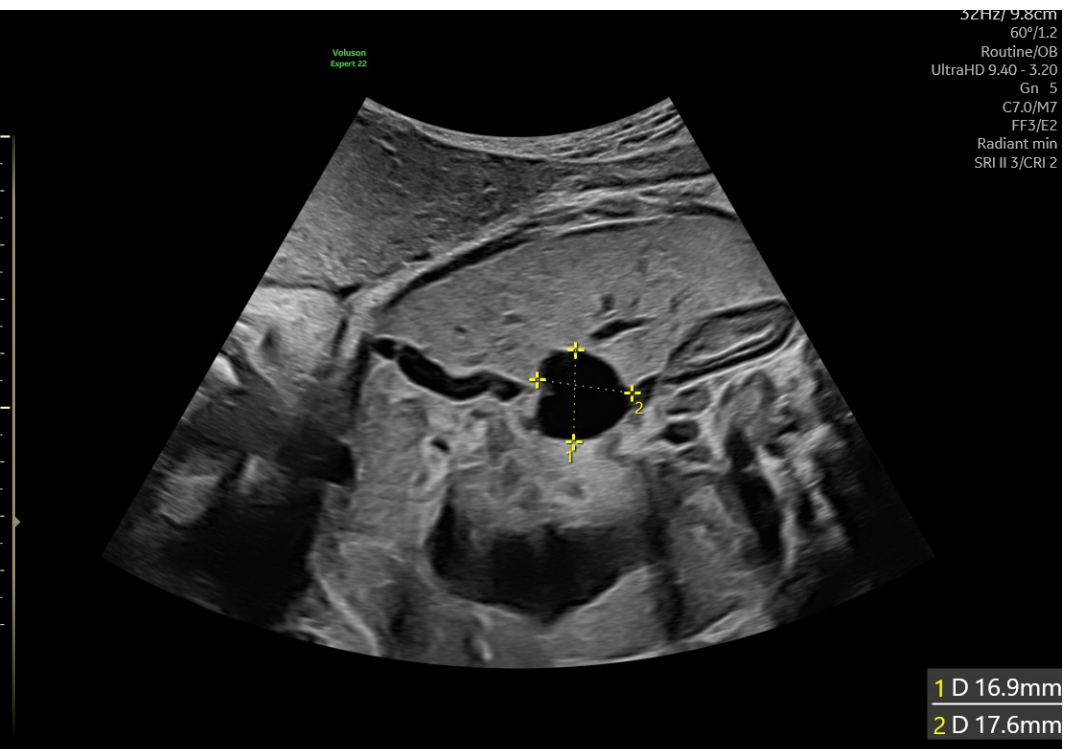


# 經過

妊娠31週



妊娠36週



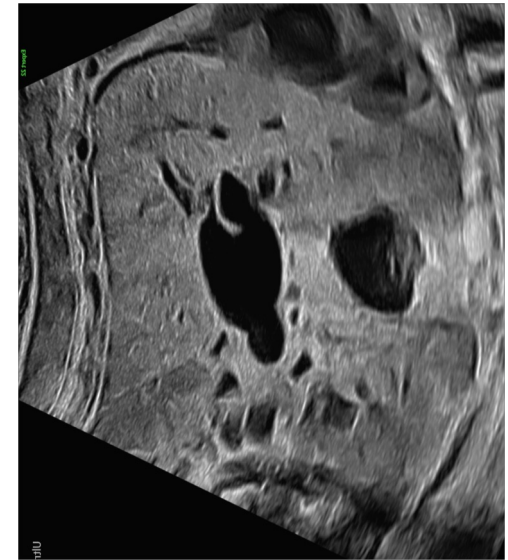
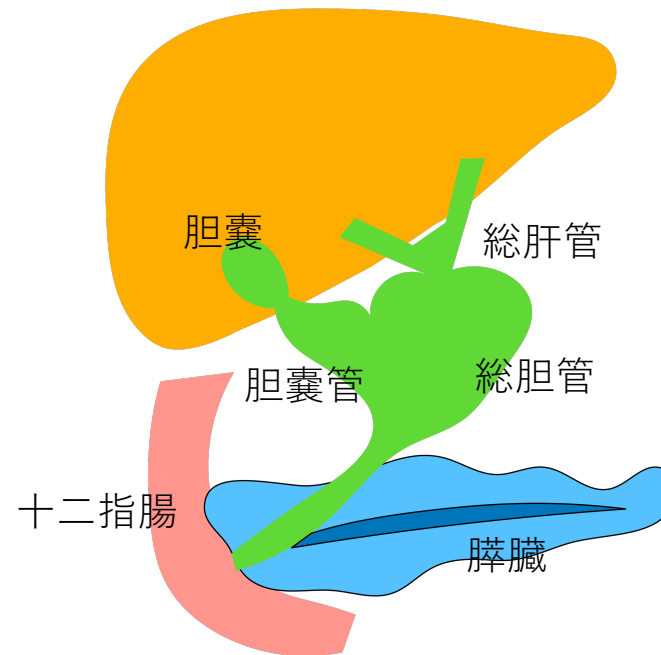
診断は？

- a. 十二指腸閉鎖
- b. 卵巣嚢腫
- c. 重複腸管
- d. 総胆管嚢胞
- e. 肝嚢胞



# 答え

## d. 総胆管嚢胞



肝門部に15mm程度の腫瘍があり、形は不整で、胆嚢は小さく確認された。腫瘍は胆嚢とつながっており、総胆管と胆嚢管の腫大と考えられた。

妊娠中に総胆管嚢胞のサイズは著変なく経過し妊娠37週で正常分娩で出生。胆道拡張症の診断となり、ビリルビンの上昇を認め、生後2ヶ月で腹腔鏡下空腸肝管吻合術を施行した。